



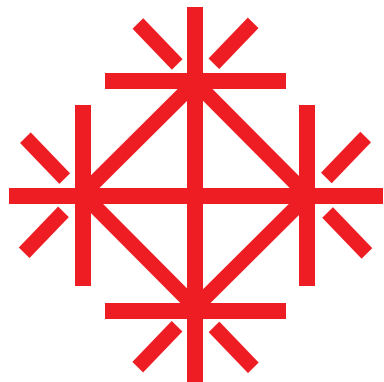
KITOKU
SHINRYO

第59期

中間期株主通信

平成18年1月1日～平成18年6月30日

木徳神糧株式会社



【企業理念】

誠意と感謝の気持ち
クオリティの追求
新しい価値の創造

contents

- P.01 トップインタビュー
- P.03 木徳神糧アレコレ通信
- P.05 連結財務ハイライト
- P.06 事業の概況
- P.07 連結財務諸表
- P.09 株主アンケート結果の報告
- P.10 株式の状況／会社概要

59期中間決算の業績に加え、木徳神糧が今後取り組む経営課題について木村社長に聞きました。



59期中間期の業績についてお聞かせください。

当中間期におけるわが国経済は、企業収益の改善をもたらした家計所得の増加により個人消費が回復し、これにより企業の設備投資が増加し、景気の回復基調が継続しております。しかし、米穀流通業界におきましては、消費量の減少に加え、小売業の出店競争等により低価格化が浸透しており、厳しい企業間競争が継続していると言えます。

このような状況のなかで当社グループは、多様化する消費者のニーズへの対応、取引先別に対する提案型営業の強化により米穀事業の収益力回復に努めると同時に、企業体質の強化に取り組んでまいりました。

この結果、当中間期の業績につきましては、売上高については、米穀事業の販売価格が低下しましたが、精米販売の数量確保に努めたことにより44,179百万円（前年

同期比11.5%減)、損益面においては、食品事業の不振により営業利益224百万円(前年同期比38.7%減)、経常利益143百万円(前年同期比51.9%減)、固定資産の減損会計適用による特別損失1,113百万円があり、中間純損失1,087百万円(前年同期は220百万円の中間純利益)となりました。

Q 主力である米穀事業の今後の経営課題と取り組みについてお聞かせください。

当社グループの主力事業である米穀事業については、「外部環境変化への迅速な対応」、「卸機能の充実とコスト競争力の強化」の二つを重要な経営課題と認識しております。コメ生産自由化の進展に伴い、原料調達先の多様化を図り、優位性のある原料の調達を注力してまいります。また、消費マーケットの細分化が進み、低価格志向型と付加価値型にそれぞれ対応した商品を投入し販売増加を図る一方、個食マーケットのニーズに合うパッケージ商品の開発に積極的に取り組んでまいります。そして、これらの課題を実現するためには、コスト競争力の強化は不可欠であり、引き続き製造コスト、物流コスト、管理コストの削減を実行してまいります。

Q 最後に株主の皆さまへメッセージをお願いします。

当社は株主の皆さまへの利益還元の充実を図り、安定的な配当の継続を業績に応じて維持することを基本方針としており、中間配当は1株につき1円とさせていただきます。

今後は、景気の緩やかな回復が見込まれるものの、当社にとっては依然として厳しい状況が続くものと思われまます。59期通期につきましては、減損会計の適用により大きな損失を計上しておりますが、営業面での利益拡大のため、グループ一丸となって取り組んでまいりますので、株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

本村良





木徳神糧のココが知りたい!? Q&A

Question 木徳神糧の海外事業の内容について教えてください。

Answer

当社の海外事業は、ベトナム、アメリカ、中国に拠点を設けており、国内の他の米穀卸会社が持たない大きな特色であると自負しております。海外の拠点は、キトク・アメリカ会社（アメリカ）、アンジメックス・キトク合弁会社（ベトナム）、大連百農米業有限公司（中国）と、いずれも現地に根を下ろしたグループ会社として展開しております。

中国にある大連百農米業有限公司は、最新の精選設備を導入し、異物混入の防止等日本と同レベルの製造環境を整えております。おコメの精選加工、無洗米加工、小袋包装ができる能力を有しております。加工したおコメは中国国内市場をはじめ、日本の業務用市場向けに販売しております。



15年目を迎えたアンジメックス・キトク合弁会社は、ベトナム・アンジャン省の輸入公社と共同でベトナムの日本米の集荷と販売を行っております。販売先はシンガポール、マレーシア、インドネシア等の東南アジア諸国や、北米、ヨーロッパを中心となっております。最近では海外における日本食ブームに伴い、日本米のニーズが高くなっております。

当社はキトク・アメリカ会社を通じて高品質の加州産あきたこまちをSBS方式で輸入し日本国内で販売しております。加州産あきたこまちについては、食味など品質面では高い評価を受けており、知名度も年々アップしております。

また、タイ・チアメン社との販売契約に基づいて最高級タイ香り米の国内での独占販売を行っております。近年のエスニックブームに伴い、年々販売規模が拡大しております。

今後の海外事業の展開については、年々高まる日本食ブームや世界的に健康志向の広まりがあり、アジア各国の都市部において美味しいおコメを食べたいニーズが強まっており、当社は日本の良質なおコメを世界各地に販売していく大きな夢を持っております。



アメリカ カリフォルニア
農場風景



大連百農米業有限公司
工場風景



アンジメックス・キトク
合弁会社事務所

お客様の声から生まれた商品です！
「たんぱく質1/12.5プチ越後ごはん」
を好評発売しております。

たんぱく質の摂取量が制限されている方にとって一回のお食事量の違いや、煩雑なカロリー計算のご負担を軽減でき、より美味しく健康にお食事を楽しんでいただくため、少量食べきりサイズでカロリー計算が簡単な商品を開発いたしました。



商品概要

- 対象者：普通の1パックでは多い(少ない)というお客さま、また、カロリー計算でお悩みのお客さま。
- 商品仕様：分割トレー採用、1カップ128g、200kcal、たんぱく質0.26g

栄養成分：	熱量	たんぱく質	水分	脂質
	200kcal	0.26g	79.4g	0.6g
	炭水化物	ナトリウム	カリウム	リン
	48.4g	2.3mg	20mg	9.2mg

(128g当り栄養計算目安)

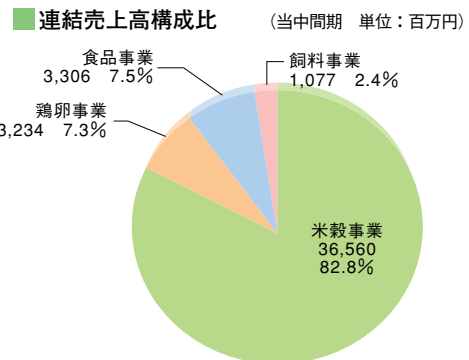
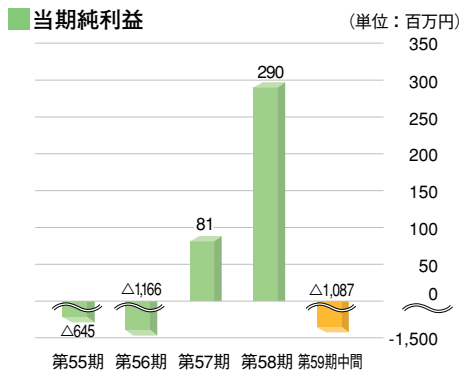
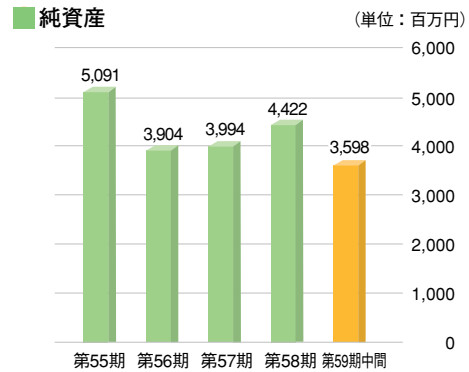
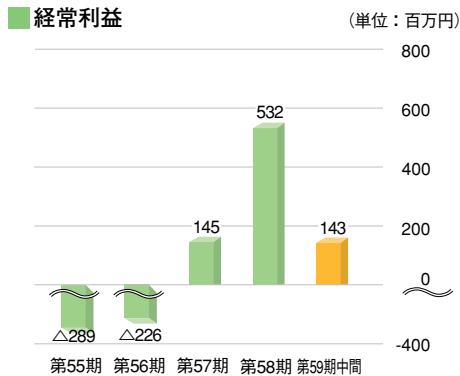
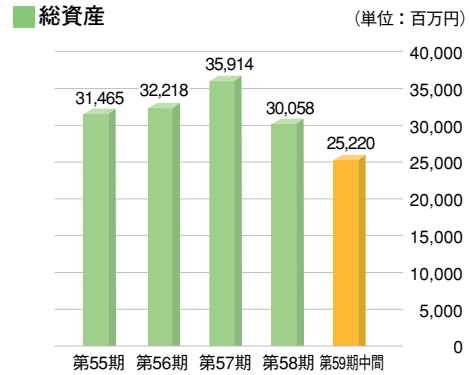
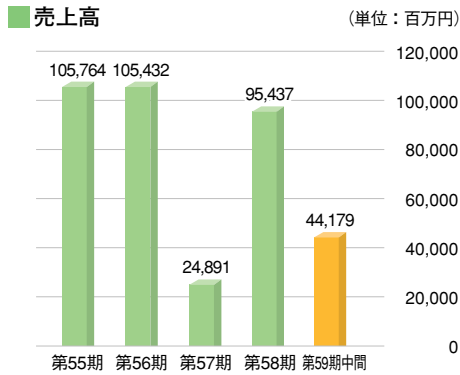
美米生活シリーズに待望の新商品！
「もみ発芽精米」を7月より販売開始
いたしました。

発芽玄米は、栄養分(ギャバ等)が豊富である一方で食べにくい、炊きにくい、混ぜるのが面倒などの面もあります。当社では、このような声にお応えし、発芽玄米の栄養分をより多くのお客さまに提供するため、もみ発芽精米を販売開始いたしました。



『もみ発芽精米』の特徴は

- 当社もみ発芽玄米の良さを活かした精米を実現いたしました。他社にはない独自性のある商品と自負しております。
- 食物繊維、ビタミン等も白米より豊富に含まれております。
- 発芽玄米を精米にしても普通の白米の平均約10倍以上のギャバが含まれております。
- 浸漬も炊飯も普通精米とまったく同じです。
- 秋田県産あきたこまちを100%使用しております。
- 「美味しい」「手軽に」栄養分を摂取できます。



(注) 1. 第57期は決算日を従来の9月30日から12月31日に変更したため、平成16年10月1日から平成16年12月31日までの3ヶ月決算となっております。
 2. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



事業の概況

Business review

米穀事業

米穀業界は、17年産米作況指数101「平年並み」という安定需給環境を背景に、卸会社の積極的な買い付け意欲が乏しくコメ価格センターにおける入札価格が前年を下回る水準となったため、業者間の玄米販売につきましては低調に推移いたしました。一方、精米販売につきましては、消費量の減少基調、消費者の低価格米志向、地域経済格差の拡大等の課題に直面し、依然として厳しい販売競争の環境が継続しております。当社グループにおきましては、製造並びに販売の効率化、適正在庫の維持、新規顧客の開拓、提案型営業の推進に注力いたしました。

この結果、当中間連結会計期間における米穀事業の売上高は36,560百万円（前年同期比11.6%減）、営業利益は621百万円（前年同期比18.8%減）となりました。

鶏卵事業

鶏卵価格は、業務用向けの輸入品の増加、昨年発生しました弱毒タイプの鳥インフルエンザ問題の終息に伴う生産の回復基調が次第に明確となったため、鶏卵価格は平成17年の高値から下落いたしました。当社グループにおきましては、家庭用一般卵の販売数量が伸び悩みましたが、品質に対する認知度の高い特殊卵の販売が堅調に推移いたしました。

この結果、当中間連結会計期間における鶏卵事業の売上高は3,234百万円（前年同期比11.7%減）、営業利益は57百万円（前年同期比2.9%減）となりました。

食品事業

食品事業の主力商品である鶏肉は、弱毒タイプの鳥インフルエンザ問題の終息に伴う生産の回復や輸入在庫が高水準であったことから、需給バランスの変調により相場が大きく下落いたしました。このため、厳しい販売環境での営業を強いられることとなりました。惣菜販売につきましては、製造原価の削減が進んだものの、新たな設備改修工事等による費用増が発生いたしました。また、植物性乳酸菌発酵技術によるたんぱく質調整米の販売は順調に推移いたしましたが、製菓等の原料向けであるもち米粉、上新粉の販売は、17年産もち米の供給過剰の影響で相場が下落し厳しい販売環境となりました。

この結果、当中間連結会計期間における食品事業の売上高は3,306百万円（前年同期比13.9%減）、営業損失は3百万円（前年同期は77百万円の営業利益）となりました。

飼料事業

飼料事業は、当社グループの主要販売先である鹿島地区での配合飼料生産量が鳥インフルエンザ問題の終息に伴い、回復の傾向が見られることに加えて、糟糠類、穀類の販売好調、新規商品の取扱いなどにより順調に推移いたしました。

この結果、当中間連結会計期間における飼料事業の売上高は1,077百万円（前年同期比6.3%増）、営業利益は77百万円（前年同期比2.1%増）となりました。



連結財務諸表

■ 中間連結貸借対照表 (要旨)

(単位:千円)

科 目	(単位:千円)	
	当中間期 平成18年6月30日現在	前中間期 平成17年6月30日現在
資産の部		
流動資産	13,894,324	18,219,387
固定資産	11,326,238	12,891,482
有形固定資産	8,484,918	9,984,569
無形固定資産	324,424	455,876
投資その他の資産	2,516,894	2,451,037
資産合計	25,220,562	31,110,869

(単位:千円)

科 目	(単位:千円)	
	当中間期 平成18年6月30日現在	前中間期 平成17年6月30日現在
負債の部		
流動負債	14,831,195	17,276,872
固定負債	6,791,208	9,122,713
負債合計	21,622,404	26,399,586
少数株主持分		
少数株主持分	—	506,043
資本の部		
資本金	—	529,500
資本剰余金	—	331,500
利益剰余金	—	3,221,496
株式等評価差額金	—	148,791
為替換算調整勘定	—	△11,347
自己株式	—	△14,700
資本合計	—	4,205,239
負債、少数株主持分及び資本合計	—	31,110,869
純資産の部		
株主資本	2,982,994	—
資本金	529,500	—
資本剰余金	331,500	—
利益剰余金	2,138,353	—
自己株式	△16,359	—
評価・換算差額等	199,756	—
その他有価証券評価差額金	222,196	—
繰延ヘッジ損益	△12,836	—
為替換算調整勘定	△9,603	—
少数株主持分	415,407	—
純資産合計	3,598,158	—
負債・純資産合計	25,220,562	—

貸借対照表

平成18年5月1日施行の会社法により、「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。

これは、貸借対照表上、資産性をもつものを「資産の部」、負債性をもつものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債との差額として「純資産の部」に記載するものです。

これにより、会社の支払い能力などの財政状態を、より適切に表示することが可能となりました。

Consolidated Financial data

■ 中間連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科 目	当中間期	前中間期
	自 平成18年 1月 1日 至 平成18年 6月30日	自 平成17年 1月 1日 至 平成17年 6月30日
売上高	44,179,538	49,896,428
売上原価	40,981,940	46,219,492
売上総利益	3,197,598	3,676,935
販売費及び一般管理費	2,973,372	3,311,344
営業利益	224,225	365,591
営業外収益	122,077	188,069
営業外費用	202,945	255,682
経常利益	143,357	297,978
特別利益	5,854	122,018
特別損失	1,248,312	40,079
税金等調整前中間純損益	△1,099,100	379,917
法人税、住民税及び事業税	19,083	76,059
法人税等調整額	△27,553	55,438
少数株主損益	△3,058	27,709
中間純損益	△1,087,571	220,710

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科 目	当中間期	前中間期
	自 平成18年 1月 1日 至 平成18年 6月30日	自 平成17年 1月 1日 至 平成17年 6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	983,120	1,857,240
投資活動によるキャッシュ・フロー	△184,267	△32,621
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,207,367	△3,154,335
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,380	3,480
現金及び現金同等物の減少額	△409,894	△1,326,236
現金及び現金同等物の期首残高	2,671,274	3,878,930
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,261,380	2,552,693

■ 中間連結株主資本等変動計算書(要旨)

(単位:千円)

当中間連結 会計期間	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等				少数 株主持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成17年12月31日 残高	529,500	331,500	3,274,295	△15,233	4,120,061	312,511	—	△9,733	302,777	426,547	4,849,387
中間連結会計期間中の変動額											
利益処分による配当	—	—	△25,467	—	△25,467	—	—	—	—	—	△25,467
利益処分による役員賞与	—	—	△22,902	—	△22,902	—	—	—	—	—	△22,902
中間純損失	—	—	△1,087,571	—	△1,087,571	—	—	—	—	—	△1,087,571
自己株式の取得	—	—	—	△1,125	△1,125	—	—	—	—	—	△1,125
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△90,315	△12,836	130	△103,021	△11,140	△114,161
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	△1,135,942	△1,125	△1,137,067	△90,315	△12,836	130	△103,021	△11,140	△1,251,229
平成18年 6月30日 残高	529,500	331,500	2,138,353	△16,359	2,982,994	222,196	△12,836	△9,603	199,756	415,407	3,598,158

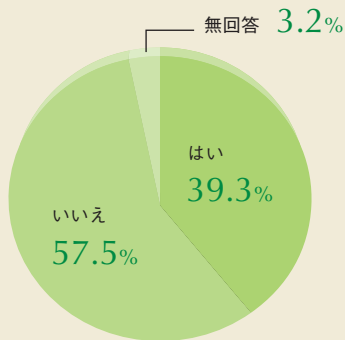


株主アンケート結果の報告

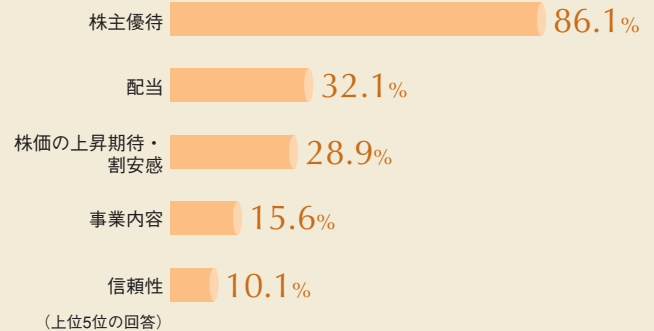
Shareholder result of the question naire report

当社では、株主の皆さまとのコミュニケーションを図るため、株主アンケートを行っております。
 第58期（平成17年1月1日～平成17年12月31日）事業報告書においてお願いいたしておりました株主アンケートでは、
 346名もの株主の皆さまからご回答いただきました。厚く御礼申し上げますとともに、その結果をご報告させていただきます。
 今後とも、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

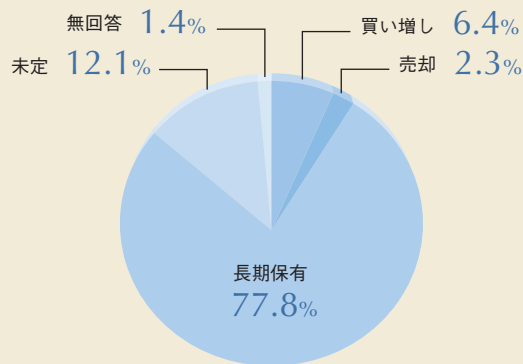
当社の商品を購入したことはありますか？



当社株式の保有理由は何ですか？（複数回答）



今後の当社株式に対する保有方針について



当社は、株主の皆さまからのご信頼に応えるためにも、会社に関わります重要情報を適時適切に公開し、継続的なIR活動を推進していく所存であります。



株式の状況／会社概要

Stock information & Corporate data

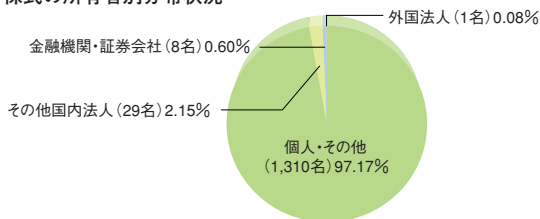
株式の状況 (平成18年6月30日現在)

- (1) 発行可能株式総数 ————— 30,000,000株
 (2) 発行済株式の総数 ————— 8,530,000株
 (3) 株 主 数 ————— 1,348名
 (4) 大 株 主

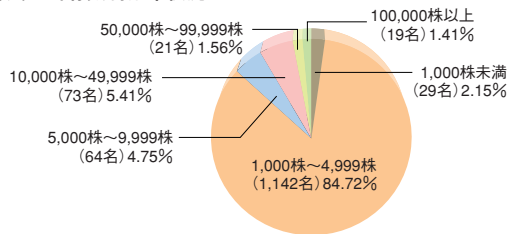
株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
木 村 謙 三	405 千株	4.75 %
木 村 初 子	351	4.11
木 村 良	319	3.74
株式会社三菱東京UFJ銀行	300	3.52
木 村 友 二 郎	241	2.83
稲 垣 辰 彌	228	2.67
濱田精麥株式会社	218	2.56
水 野 正 夫	210	2.46
木徳神糧従業員持株会	196	2.31
株式会社三井住友銀行	186	2.18
農 林 中 央 金 庫	186	2.18

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は、小数点第3位を四捨五入で表示しております。

株式の所有者別分布状況



株式の所有数別分布状況



会社概要 (平成18年6月30日現在)

商 号 木徳神糧株式会社
 事業内容 米穀事業、海外事業、飼料事業、
 コメ加工食品事業
 本社所在地 〒140-0002
 東京都品川区東品川二丁目2番24号
 天王洲セントラルタワー14階
 TEL 03-5479-7111 (代表)
 FAX 03-5479-6999
 資本金 5億2,950万円
 従業員数 146名

役 員 (平成18年9月28日現在)

取締役・監査役

代表取締役社長 木 村 良
 専務取締役 松 山 正 吉
 専務取締役 平 山 惇
 取締役 水 野 正 夫
 取締役 山 本 幸 雄
 常勤監査役 土 田 秀 三
 常勤監査役 高 橋 健 治
 ※ 監査役 大 川 孝 之
 ※ 監査役 松 下 守

※印は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

執行役員

執行役員 木 村 友 二 郎
 執行役員 天 川 誠
 執行役員 伊 豫 田 直 記
 執行役員 小 森 浩 資

事業所一覧 (平成18年9月28日現在)

本 店 東京都中央区銀座
 本 社 東京都品川区東品川
 関西支店 滋賀県東近江市
 桶川精米工場 埼玉県桶川市
 本牧精米工場 横浜市中区かもめ町

株主優待のお知らせ

1,000株以上保有の株主及び実質株主の皆さまに対し、当社の米穀製品を贈呈いたします。
(年2回実施)

6月30日現在の
株主の皆さまには
一律
2,000円相当

12月31日現在の
株主の皆さまには
一律
3,000円相当



平成18年6月30日現在の株主の皆さまには、当社が厳選した平成18年産新米2kg1袋と好評販売中である「もみ発芽精米」1kg2袋を贈呈いたしました。

株主メモ

- 事業年度 1月1日から12月31日まで
- 定時株主総会 毎年3月に開催いたします。
- 基準日 定時株主総会については12月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日
- 配当金受領株主確定日 12月31日及び中間配当金の支払いを行うときは6月30日
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 同事務連絡先 〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
(郵便物送付先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(お問い合わせ先) TEL 0120-707-696<フリーダイヤル>
- 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国各支店
- 公告方法 日本経済新聞
貸借対照表及び損益計算書を当社のホームページに掲載しております。
<http://www.kitoku-shinryo.co.jp/koukoku.html>

(届出諸事項についてのお知らせ)

住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求及び買増請求に必要な各用紙及び株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。